

# 全身で川を、水辺の大自然を感じる！

群馬県 邑楽町立高島小学校

高島小学校では6年前から4～6年生が、渡良瀬川での「川学習」に取り組んでいます。4年生「渡良瀬川の四季」、5年生「渡良瀬川と地域の川」、6年生「川と人々」と連続するよう単元を構成（5、6年生については6ページ参照）。川学習を行うには「五感で体験」が大切と考え、川流れや川渡りを実施しています。4年生の活動を見てみましょう。

## 4年生 学習のねらい

豊かな自然体験・本物体験は、必然的に感動を生み、感動は学習への関心・意欲を喚起し、課題意識を高め、さらに心の成長をもたらす。また、自然体験学習には、「創造」「探究」「共同」「解放」「発見」の5つの価値があると考え、自ら考え意欲的に活動する児童を育成することをねらっている。

## 4年生 大単元：楽しさいっぱい！渡良瀬川の四季

### 春から冬まで渡良瀬川を体験



いかだ遊びを楽しむ児童も

### 夏、川流れ

夏休み前の7月、大人たちが見守る中で、ライフジャケットを着用した子どもたちは川に入って泳いだり、川に身をまかせて流されたり、全身で川を感じ取ります。

川流れ・川渡りは4年生で初めて体験し、5、6年生も行います。

### この学習活動を行うにあたって

- 川までの時間：バスで30分（距離約15km）
- 活動地点：太田市只上の渡良瀬川河川敷
- 河川の状況：川幅が広くゆったりと流れ、水はきれい。ハヤ、オイカワ、ザリガニやスジエビ、水生昆虫などが見られる。河川敷には広い林がある。
- 季節：5～2月
- 教科：総合的な学習の時間
- 時間数：年間75時間
- 参加した児童数：2クラス47名
- 指導した教員数：6名

- 学校が用意する主な道具・装備：ライフジャケット、ロープ、テント、シート、エアーマット、水質検査用バックテスト\*、網、箱めがね、薪、救命用具、軍手、デジタルカメラ、火ばさみ、ハンドマイク、なべ
- 児童が用意する主なもの：着替えの服2組、着替えの靴1足、弁当、水筒、タオル、ポリ袋、筆記用具
- 協力者：各クラスからPTA各2名のほか数名、国土交通省渡良瀬川河川事務所から6名
- 保護者との連携：日頃から保護者に理解してもらえよう、学年だより、学級だよりで、学習の経過を知らせている。

## 4年生 ● 年間活動計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元 (テーマ)	春～初夏の渡良瀬川体験		夏の渡良瀬川体験			秋の渡良瀬川体験			冬の渡良瀬川体験			
活動	魚や植物を採集 浅瀬を対岸へ渡る		川流れ・川渡り			河原の石でオブジェ 作り。河原の林で ターザンごっこ			バードウォッチング、 ゴミ拾い、基地作り			

### ●この活動の安全対策

職員は必ず下見を行い活動内容を確認するだけでなく、実際川に入って川の様子をつかんでおく。さらに、引率職員と支援者との打ち合わせを綿密に行い、大人が安全な場所を確保しその範囲にロープを張って持つ。児童が流れないように川下に立つ。いっしょに入って川の流れを体験し危険箇所を確認する。

### ●成果の発表方法

授業参観等での発表、国土交通省主催の成果発表会、学校ホームページ等。

### 夏、川渡り

川の兩岸に張り渡されたロープを伝って、子どもたちは流れの中を川上に向かって斜めに縦断していきます。最初は簡単なところですが、次第に難しいコースを設けて何度も川を渡ります。



ロープを伝って対岸に渡っていく

### 春は河原で魚とりや植物採集 秋・冬にはターザンごっこやバードウォッチング

春、秋と冬にも渡良瀬川の河原を舞台に自然体験学習が継続します。4年生の場合、春は魚とり、秋には河原の林でターザンごっこや清掃活動、冬にはバードウォッチングや基地づくりなどを行います。



春の水辺で魚とり



冬はバードウォッチング

### 活動のくふう 「雨天」も川学習の一環に

川に入ると体が冷えるので、暖をとれるよう保護者に河原でみそ汁を作ってもらっている。現地で採ったニセアカシヤの花やクレソンも食材として利用し、舌でも自然を体験。川での活動は、雨天でも中止にはしない。川の多様な姿を学べるので、水に入ることにこだわらず、できる範囲の活動を行う。川に初めて入るのは4年生からだが、3年生は夏に上級生の活動を見学し、泳ぎはしないが水に入って網で生物を捕るなど意欲を喚起している。

### 活動の効果 川学習を保護者が高評価

6年前に始めたときは「遊びだけではないか」等の意見もあったが、回を重ねるうちに職員の共通理解も深まり全校体制としての取り組みに変わっていった。また、保護者や地域の方の意識が変わり、現場に来て子どもたちの支援に携わってくれる人も増えた。校内の発表会には、多くの保護者や地域の方が参加するようになった。さらに、学校評価では保護者から評価を得、子どもたちのためにも川学習を続けて欲しいという要望がかなり寄せられた。

学習活動の展開指導案

# 4年生 夏の渡良瀬川体験（川流れ）

ねらい：夏の渡良瀬川に入り全身で川を体験することにより、自然のすばらしさや偉大さ、自然の中での遊びの楽しさを体験することができる。

	児童の学習活動	教師等の支援
事前	<ul style="list-style-type: none"> <li>川流れについて目的や心構えを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施日の1週間前位に下見を行い、川や水辺の状態を調べておく。職員が実際に川の中に入り、川の状況を確認する。</li> <li>教室で川流れについて写真やビデオを見せ、興味・関心を喚起する。</li> <li>川流れの目的（川の流れの様子を体験したり、川底の石や水生植物・昆虫等を調べたりする。チャレンジ精神を養う）を伝える。</li> <li>準備や心構え等を指導し、楽しく安全に行うことの大切さを周知徹底する。</li> </ul>
当日	<ul style="list-style-type: none"> <li>川流れの準備をする。                             <ol style="list-style-type: none"> <li>川流れの目的を確認する。</li> <li>ライフジャケットをつける。</li> <li>準備体操を行う。</li> </ol> </li> <li>準備体操後、順番に川に入る。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>ロープの範囲内でいろいろな流れ方で流れる。                             <ol style="list-style-type: none"> <li>教師の手を借りて流れる。</li> <li>自力で流れる。</li> </ol> </li> <li>仰向けで流れる。</li> <li>うつぶせで流れる。</li> <li>グループでいかだを作って流れる。（ペットボトル、木々、古タイヤ等で作る）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員や国土交通省の職員及び保護者が、川流れができる適切な場所を探す。そのポイントは                             <ol style="list-style-type: none"> <li>川幅が広く流れが激しくない。</li> <li>危険な箇所が見あたらない。</li> <li>難易度の変化がつけられる。</li> </ol> </li> <li>安全を確保するため、準備体操を必ず行う。</li> <li>国土交通省から借りたライフジャケットをつける。しっかりひもで縛り外れないようにする。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>ロープの範囲内で流れるようにする。ロープは職員や国土交通省の職員及び保護者が持つ。また児童が杵から流れてもすぐ救出できるように、ロープの川下に何人か立つようにする。</li> <li>最初に職員が実際に川に入り手本を示す。危険と感じられる所については避けるようにする。</li> <li>ロープを持ちながら常に児童の安全に目を光らせ、事故が起きないように細心の注意を払う。</li> <li>慣れない場合や不安を感じている児童には手を貸し、不安を取り除く。慣れてきたら自力でチャレンジするように励ます。</li> </ul>
事後	<ul style="list-style-type: none"> <li>川流れの体験をまとめたり発表し合ったりし、自然の素晴らしさを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>川の様子について気づいたことや楽しかったこと等、自分の気持ちの変化を作文やプリントに書き、見せ合ったり発表し合ったりすることによって、感動を共有するように働きかける。</li> </ul>

5年生、6年生の渡良瀬川体験活動

●5年生……4年生に引き続き渡良瀬川中流での川活動を続ける一方、「渡良瀬川と地域の川」をテーマに、川で観察したり調べたりしたことを手作りのパンフレットにまとめる。

●6年生……4年生からの渡良瀬川の体験を続ける一方、上流の足尾や下流の渡良瀬遊水池などを訪ねて、渡良瀬川の歴史も学習。渡良瀬川と人々の暮らしを広く深くとらえる。

## この学習のポイントと成果

# 豊かな、本物の自然体験により 学校生活に多くの好影響が

邑楽町立高島小学校 齋藤実・福島慶子



齋藤実教頭



福島慶子教諭

## 学習の動機

平成12年度から本校の自然体験学習は始まりました。豊かな自然体験・本物体験は、必然的に感動を生み、感動は学習への関心・意欲を喚起し、課題意識を高め、さらに心の成長をもたらすと考えたからです。その際、地域にこだわらずたとえ遠く足を伸ばしても、豊かな体験ができる場所、よりよい活動ができる場所を探しました。

そして見つけたのが渡良瀬川中流(太田市只上)で、次のような特徴を備えています。川幅が広くゆったりと流れ、水はきれい。川渡りや川流れが体験できる。水たまりにはハヤ、オイカワなどの魚が群れをなしている。浅瀬にはザリガニやスジエビ、石の下には水生昆虫が潜んでいる。創作意欲を引き出す様々な形をした石が豊富にあり、川辺付近にはクレソンを始めたくさんの植物が育っている。河川敷には林が生い茂り、冬には野鳥の姿が見られる。

## 職員の取り組みと心がけたこと

最初は職員の共通理解を形成するところに心を砕きました。小委員会を発足させ、話し合いの輪を広げながら、職員研修として全校体制で取り組むようになりました。フィールドワークを重ね職員自ら川や林に入り、児童の目の高さや気持ちになって研修を繰り返しました。最初は、単なる遊びでは？という批判も聞こえてきましたが、自然体験は子どもたちにとってかけがえのない学習であるという信念に基づいて活動を重ねていく中で、いくつもの価値が明確になっていきました。

川での学習は有意義で楽しいことがたくさんありますが、一歩間違えば大変な事故につながりま

す。そして万が一事故が起きれば、もう二度とこの学習はできないということをわれわれ職員はもちろんのこと児童にも常に意識づけています。

児童に対しては、事前学習において危機意識をもたせ安全に注意させると共に、事故のないように守ってくれている支援者の方々(国土交通省の方や保護者等)に感謝の気持ちをもたせるようにしています。

## 児童の成長

まず、子どもたちは川が大好きになったと同時に、川の危険も身をもって理解するようになりました。川に関する知識も増えました。一連の自然体験学習をするようになってから、落ち着いて学習に取り組む姿勢が育ってきたように思います。川に行くと、どの子も良い顔になって先生の話もよく聞くのです。その好影響が学校生活に少しずつ現れているように思います。

川の活動では、教員、保護者、国土交通省の職員などが川渡りの綱を持ってくれるなど、子どもたちの安全を支えています。危険な活動もその人たちのおかげで楽しく安全にできることを、子どもたちは身をもって体験するので、感謝の念が自然に培われます。自然と自分の言葉で「ありがとうございます」と言えるようになりました。

また、川学習をやって学んだことを毎年発表しています。子どもたちは、流速、水温、川幅、動植物、水生昆虫などについて共通の課題を持った者どうしがグループを作って調べています。その発表会を授業参観等の機会を利用して行っています。また、国土交通省主催の成果発表会でも発表しています。こうした活動の成果として子どもたちの表現力が高まったように感じています。

# 多摩川で遊び、多摩川を探検しよう！

東京都 和光学園和光小学校

和光小学校では4年生が20年来、多摩川での活動を行ってきています。学校は多摩川から直線距離で10km以上も離れているため、往復には十分時間をとっています。主な活動場所は多摩川本流の中流部ですが、3泊4日の奥多摩合宿を含む5回を数える多摩川探検と、4回の社会見学、飼育魚類の放流等を行いました。

## 4年生 学習のねらい

流域の開発によって、多摩川は傷められてきたが、今なお動植物の命を育み、豊かな自然を確保している。子どもたちも自然の中で戯れ学ぶことを望んでいる。彼らの願いを大自然の中で大いに発揮させたい、そんな願いをこめて多摩川に通い、様々な姿を見つめ感じさせたいと考えた。

## 4年生 大単元：多摩川に働きかけ、多摩川の自然の姿に学ぶ

### 多摩川探検

#### 第1回探検：野草つみ

最初の探検では、多摩川中流の河原で春の野草をつみました。野草は絵本『食べられる野草』を手がかりに採集し、天ぷらにして食べました。



河原で野草をつむ

#### 第2・3回探検：魚とり

本川の中流域と支川で、釣り竿や網、ペットボトルで作ったトラップなどを使って魚や水生昆虫などをとりました。捕獲した魚は、その後、翌年3月の学習納めまで、校舎内のオープンスペースで飼育を続けました。



中流の河原で魚をとる

#### 第4回探検：源流探検

3泊4日の奥多摩合宿に出かけ、笠取山登山を兼ねて水干(多摩川の最源流部)や沢の観察、上流の河原での冷たく澄んだ水での川遊びや水生昆虫とり、日原川流域の水を蓄える巨樹巨木の観察、奥多摩氷川小学校との交流によるヤマメの放流体験などを行いました。



源流の近くでわき水を水筒に入れる

### この学習活動を行うにあたって

- 川までの時間：電車・徒歩で40分（距離10km）
- 活動地点：多摩川の上流・中流・下流
- 河川の状況：上流は川幅が狭く急流。中流は川幅が広くゆったりと流れ、水はきれい。オイカワ、コイ、フナ、ハヤ、ウグイ、ドジョウ、ウナギ、水生昆虫などが生息。下流には干潟がある。
- 季節：4～2月
- 教科：総合的な学習の時間、国語、社会、理科、図工
- 時間数：年間100時間
- 参加した児童数：2クラス72名

- 指導した教員数：4名
- 学校が準備する主な道具・装備：救命用具、ロープ、水質検査用パックテスト、たも網、四手網、釣り竿としかけ、双眼鏡、デジタルカメラ、ハンドマイク
- 児童が用意する主なもの：着替えの服、着替えの靴1足、水着、ゴーグル、バスタオル、弁当、水筒、タオル、ポリ袋、筆記用具、図鑑、ノートなど
- 協力者：行政機関、漁協、学識者、大学生
- 保護者との連携：河川での活動ならびに各地での子どもたちのグループ活動の引率協力をお願いした

4年生 ● 年間活動計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元 (テーマ)	多摩川の自然に触れよう			多摩川の自然から学ぼう				多摩川の自然を伝えよう				
活動	第1回探検 野草つみ			第4回探検 源流探検 (奥多摩合宿)		第5回探検 干潟の生物観察		多摩川研究 を伝える会		社会科見学 (ゴミ最終処分場)		
	第2・3回探検 魚とり					社会科見学 (浄水場)		社会科見学 (下水処理場)				

●この活動の安全対策

教師が事前に子どもたちの活動場所に行って、安全に活動できる場所であるかどうか、川に入って深さや流量を確かめた。担任以外の教師、保護者（お父さんの参加も大切にした）、夏の源流探検では大学生の応援も得て、十分に人を配置して、子どもたちの活動を見守った。

●成果の発表方法

授業参観等での発表、体育館での発表会、NHK教育TV「たった1つの地球」に出演。



上流で川遊び



水干と呼ばれる多摩川の最源流部で記念撮影

第5回探検：干潟の生物観察

昼時に干潮になる日を見計らって、下流の川崎大師干潟へ出かけました。子どもたちは、足元を逃がさずトビハゼやカニの群れに気がつくまで、目を輝かせ服が泥んこになるのも気にせず追っていました。



干潟の生物を観察する

活動のくふう 彼の教科ともからませて

可能な限り多摩川に出かけ、からだで感じ取る学習を進めるようにした。その際、子どもたちが様々な方法で川を楽しみ、川に関われるようにつとめ、人々との出会いの中で学べるような場を設けた。「ある1点の多摩川」から「東京を流れる多摩川」として子どもの身の丈に合った「東京」の学習としても位置づけ、他の教科学習ともからませて「川」に対する認識を深められるようにした。学習の記録を丁寧にとり、他の学年や保護者に伝えることも心がけた。

活動の効果 「本物の賢さとたくましさ」が

子どもたちの中に「本物の賢さとたくましさ」を生み出した。学習のはじめに「あの汚れた川に生き物はいるのか」「アジやイワシが川にいた」などと言っていた現代の子どもたちが、川と川があるから生きている動植物を実感し、そのための私たちの生活のあり方も考えることができた。

また、本物と出合う中で、図鑑を使って名前を特定し、その特徴や飼育の方法などを正確に知ろうとする態度も見られるようになった。

# 身近な川でいかだ遊びやダイビング！

愛知県 東栄町立東部小学校

東部小学校では、全学年が6学級、児童数が33名と小規模であるため、「川学習」は5年生と6年生が同じ単元のもとに合同で学習活動を行っています。活動の中には「いかだ作り」があり、5・6年生の手で完成した後に、他の学年の児童も参加させ、いっしょにいかだに乗りながら川に親しませるくふうもしました。

5・6年生  
学習のねらい

学校の眼下を流れる一級河川大千瀬川中流を舞台に、川で楽しく遊び、水辺の生物や水質を調査し、河原の清掃や川の環境を保護する活動を行う。これらの活動を続けていく中で、自然の尊さを学び、自然を愛し、美しい環境を守ろうとする心を育てる。

## 5・6年生 大単元：手作りいかだで川下り

### いかだを作って楽しもう



5、6年生が作ったいかだに下級生も乗って川を下る

7月の夏休み前、5、6年生12名は総合的な学習の時間に、コンパネ、角材、タイヤチューブ等を材料に畳1枚ほどのいかだを4艇作りました。



友だちと協力していかだを作る5、6年生

#### この学習活動を行うにあたって

- 川までの時間：徒歩10分（距離約1km弱）
- 活動地点：大千瀬川の中流
- 河川の状況：川幅は約10m、水はきれい。アユ、コイ、アマゴ、ウグイ、ウナギ、シラハエ、ほたるの幼虫、タニシなどの水生昆虫が生息
- 季節：6～9月上旬
- 教科：総合的な学習の時間（1～4年生は時間外のゆりの時間を活用）
- 時間数：年間15時間（夏休みも利用）
- 参加した児童数：全校33名（いかだ作りとダイビング

コンテストについては5、6年生のみ）

- 指導した教員数：10名
- 学校が準備する主な道具・装備：救命胴衣、ロープ、デジタルカメラ、ハンドマイク、ゴミ袋
- 児童が用意する主なもの：着替えの服、着替えの靴、水着、ゴーグル、バスタオル、水筒、ポリ袋、筆記用具
- 協力者：東栄町役場住民課衛生係、保健所、地域の環境保全委員、新城市消防署東栄分署
- 保護者との連携：河川での活動では、子どもたちの監視、引率の協力をお願いした。

5・6年生 ● 年間活動計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元 (テーマ)	川について考えよう		いかだを作ろう	川で楽しもう	夏休みを利用して川遊びをし、川に親しむ							
活動	川を楽しむために何をするのか考える。		・生物調査	・清掃活動	計画を立てい	かだを作る。	川下りとダイビングコンテスト					

●この活動の安全対策

ダイビングコンテストや手作りいかだでの川下りでは保護者の協力も得て、教師とともに監視。また、川渡りではライフジャケットを全員に着用させた。川掃除では手袋を着用。川遊び（水泳）では保護者と教師が監視当番として各箇所にて2名ずつついた。

●成果の発表方法

国土交通省・(財)豊川水源基金等の主催による「川と緑の交流コンサート」にて5年生による実践発表

完成し進水式を終えると、全校児童は4艇のいかだで大千瀬川下りに挑戦しました。はじめのうち思うようにいかだを操れなかった子どもたちも、時とともにオールを使い方に慣れ、100mほど下ると陸に上がって上流までいかだを運び、何度も何度も繰り返し川下りを楽しみました。



岩の上から川に飛び込むダイビングコンテスト（5、6年生のみが参加）



水生生物を観察する児童



上級生と下級生がいっしょに清掃活動

活動のくふう 低、中学年といっしょに

川は楽しいところ、川で遊びたい、川の活動がしたいと子どもたちが川を身近に感じる事がまずはもっとも大切なことと考えた。そのひとつとして「いかだ作り」に挑戦させて、完成後、川下りをするときには、低、中学年の児童たちにもいかだ乗りを楽しませるなど、低・中学年と高学年との交流が図れるようくふうした。

活動の効果 五感をフルに働かせる

川に連れていくと子どもたちは、時間をフルに活用して、自然の楽しみ方を発見していく。大人が怖いところとして遠ざけてしまうのではなく、自然に触れさせていくことで怖さも楽しさも自ずと学んでいくところだと感じた。

子どもたちは、いろいろな体験を通して、五感をフルに働かせ生の自然から多くを学ぶことができた。また、この活動を進めていく中で、自然を守ることの大切さを感じることができたと思う。保護者も巻き込んだ活動は、地域にも河川の学習についての関心を広げることにつながった。

# 体育の水泳もできる自慢の清流で学習しよう！

和歌山県 印南町立切目川小学校

切目川小学校は、全学年7学級、児童数60名の小規模校です。総合的な学習の時間で「川学習」を行っているのは6年生の16名。「ふるさとのおよびの良さ」に気づき、ふるさとが大好きな子どもたちをテーマに、切目川での「生物調査」「水質調査」のほかに、体育の授業や夏休みの川での水泳特訓にも力を入れています。

6年生 学習のねらい

校区の中心を切目川が流れ、豊かな自然環境に恵まれた農村地域である。この環境に生活する子どもたちが、切目川のよさに気づき、伝統を守る保護者や地域の人々とふれ合う中で、調べる力や考える力を伸ばし、体験的学習を通して豊かな心や生きる力を育てることをねらいとしている。

## 6年生 大単元：切目川に学ぶ

### 清流ならではの川水泳

切目川小学校にはプールがないので、7月中は体育の時間に川で水泳指導が行われています。夏休み中は4つの地区で保護者監視のもと、川水泳を楽しみます。



7月、川に設けられた水泳場で体育の授業が行われる



夏休み中も、地区に分かれて川で水泳を楽しむ



水泳シーズンを前に川の清掃をする

#### この学習活動を行うにあたって

- 川までの時間：徒歩1分（距離50m）
- 活動地点：切目川の中流
- 河川の状況：川幅は約15m、水はきれい。アユ、コイ、アマゴ、ウグイ、ウナギ、シラハエ、トンボやカゲロウの幼虫などの水生昆虫が息息
- 季節：4～3月（一年間、川水泳は7月）
- 教科：体育（川水泳）、総合的な学習の時間（切目川に学ぶ）
- 時間数：川水泳10時間、6年生総合は年間60時間
- 参加した児童数：川水泳は全学年60名、6年生総合は16名
- 指導した教員数：川水泳は4名、6年生総合は2名
- 学校が準備する主な道具・装備：救命胴衣、ロープ、デジタルカメラ、ハンドマイク、ゴミ袋
- 児童が用意する主なもの：着替えの服、着替えの靴、水着、ゴーグル、バスタオル、水筒、ポリ袋、筆記用具
- 協力者：地域の自然や生物に造詣の深い方（元高校の生物の教師）
- 保護者との連携：夏休みの地区別川水泳では、交代で子どもたちの監視をお願いした。

## 6年生●年間活動計画

月 単元 (テーマ)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
活動	とことん遊ぼう切目川			川水泳			とことん調べよう切目川			発表しよう切目川		
	川遊び、魚釣り、いかだ作り						上・中・下流の3か所で生物・水質調査					
	水泳場所など川の各所で清掃活動											

### ●この活動の安全対策

体育の授業として川水泳を行う場合、通常の水泳指導の注意の他、水量や水温の計測や安全のため浮き輪や両川岸に張るロープを用意し、2学年合同の体育を複数教師が指導している。また、事前に水質検査（教育委員会）を行い、夏休み中は4地区に分かれ、複数の保護者が輪番で監視を行っている。

### ●成果の発表方法

全校の学習発表会、授業参観で保護者に発表

## 切目川の生き物や水質を調べよう

6年生は切目川の自然環境や歴史について調べました。自然環境については、2学期に川の生物や水質を調査しました。講師を招いてパックテストや指標生物による水質検査の方法を学び、上流・中流・下流の3地点で調査活動を行いました。



切目川の上流で、生物を採集する



ネットの中の生物を観察する



採集した生物から川のきれいさなどの環境を調べる

### 活動のくふう 異年齢集団での学習も

体験的な学習を多く取り入れて、地域の自然や文化のすばらしさを感じ、その感動を推進力として自ら学び自ら考えることができる力を育成したいと考えている。学習形態は学級単位が基本だが、課題によりグループ学習や異年齢集団による学習を取り入れるなどくふうして、お互いの思いやりやコミュニケーション能力を高めようとしている。担任を中心に教師が複数授業に対応したり、地域のお年寄りや指導者を講師としてお招きすることもある。

### 活動の効果 高齢者に学ぶ姿勢が

切目川の学習を通して、地域に学び地域を大切にする気持ちや高齢者に学ぶ姿勢ができつつある。60名と少ない児童数であるため、下級生や弱い立場の子どもに対するいたわりが見られ、協力してひとつのことをやり遂げることの尊さを学んでいる。自然環境を観察することで視野が広がり、課題探求に熱心に取り組む児童が育ちつつあるが、児童の多くは、自ら課題を見つけて積極的に探究する姿勢がまだ身につけていない。今後の課題である。